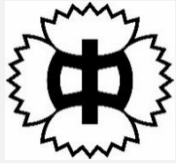


大宮小&済美小&大宮中 夢のタスキを9年間つなぎます！



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和2年11月30日 第15号(19-38)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ！』

11/9 朝礼の話 『SOS信号は微弱なことが多い』話

～見つけよう、あなたのまわりのSOS～

今月は『ふれあい月間』です。みなさんの周りの人間関係を見つめなおす11月。時々ニュースで『いじめを苦にして中学生が自殺』という事件が報道されます。またか…。悲しすぎます。その学校では、生徒のつながりや絆はどうだったのだろう。先生は（変だな？）と思わなかったのか。家族は異変に気付かなかった？

いじめ撲滅の標語で、私が好きな言葉があります。『見つけよう、あなたのまわりのSOS』。いじめは小さな芽のうちに、『SOS』の発信を感知できるかが勝負です。恐らく多くの場合、その『SOS』は極々微弱な信号です。

私の体験です。50年前の小学校3年生の冬、当時私は元気で活発な子どもでした。ある日クラスのある男子が言い出したあだ名によって、私は傷つきました。私は当時から髪の毛がモシャツとした天然パーマでした。自分の天然パーマが普段から嫌でした。（みんなと同じ真っ直ぐな髪だったらな～）と、よく思いました。気にしていた部分をとらえた、どストライクのあだ名でした。呼ばれる度に嫌な気持ちになりましたが、誰も助け



てはくれません。それはなぜか？私が『笑っていた』からです。喧嘩をすれば勝てる相手でしたが、なぜか私の反応は『笑い』でした。『笑うこと』が精いっぱい虚勢だったのです。四月になり4年生。クラスは変わり、そのあだ名を編み出した男子とも別のクラスになり、あだ名は自然に消えました。今思い出すと、そのあだ名を使っていたのは数人の男子でした。クラスに広まることがなかったのは、小学3年生でも身体的特徴や本人の努力で変えられない事を、あだ名に使うのはアウト！という良識があったのかもしれません。あるいは私が発する微かなSOSを、感じ取ってくれる人がいたのかもしれません。人の嫌がる事は、絶対に言ったりやったりしてはいけないことに気付かされた体験でした。

いじめの加害者が、後で「そんなに辛いとは思わなかった。笑っていたから大丈夫と思った」と言うことがあります。ふざけるな、と思いませんか？多くの人は、嫌なことがあっても、悲しい、悔しい感情を表に出せないものです。だから私たちは大きな事が起きる前に、微弱なSOS信号を敏感にとらえなければなりません。そのため東京都のいじめアンケートです。SOSをキャッチできるのは、大人よりも周りの皆さんです。気になることは書いてください。先生方は素早く真剣に手を尽くします。😊

授業ぶらっと訪問⑬

11月18日(水) ⑤ 道徳 3B 近藤教諭

教科書の「足袋の季節」という読み物資料です。昭和の初期、主人公は小学校を卒業して、親元を離れて北海道のおばさんの家に転がり込んで、郵便局で職を得た極貧の少年です。局員のおつかいで大福もちを買った時、老婆がつり銭を間違えたことを承知しながら、黙って懐に入れてしまった苦い思い出の話です。



近藤先生は丁寧に範読した後、当時の生活状況や金銭換算、北海道の小樽の冬の厳しさについて、時代背景を確認します。そして「もし自分だったらどうする？」と生徒に尋ねます。「相手による。おばさんだったら正直に申告する。コンビニの店員だったらそのままろう」「相手が誰かに関係なく、自分に罪悪感が残るから正直に言う」等。近藤先生は、「私だったら、主人公のような裸足で雪の中を歩くような極貧の生活では、助かったともらってしまうと思う」と話しながら、全員に正直に言うか言わないかを書かせます。その後、周りの人と意見交換させます。「言う」か「言わない」で意見を交わしています。それを聴きながら回っていると、A君から「校長先生ならどうしますか？」と、直球な質問。「うーん。多分主人公の立場だったら黙ってるかな…」。

近藤先生が黒板に『言う』派と『言わない』派の意見を書いていきます。「生活が楽になったら、後から返したいと考えた」という意見が出てきたところで資料の最後に。その後主人公は、お金に余

裕ができて、おばあさんに果物かごを持ってお金を返しに行った時、既におばあさんは亡くなっていて…という結末。おばあさんがお釣りをくれる時、「踏ん張りなされ」と言った気持ち、「おばあさんが私にくれた心」は何だったのかを書かせます。人を応援する心。思いやりができる心。自分がつらくても人に優しくする心。といった意見が出てきました。最後に近藤先生は、「時として、人は自分の弱い心が出て、後で後悔するような選択をしてしまうことがある。自分の弱さに気付いたとき、どんなことに気を付けながら生きるかを考えて」と話して感想を書かせます。見て回ると、多くの生徒が、「自分の弱さを認めて向き合い、それに負けない気持ちで生活する」等と書いていました。

『足袋の季節』の授業を参観しながら、(自分の弱さを認めつつ、誤りに気付き正そうとする心を大切にしたい)と、私も一緒に考えました。

11月20日(金) ③2年女子 保健 渡辺講師

女子の授業です。『怪我の応急手当』の授業。黒板に『骨折やねんざの応急手当』と書きます。最初に渡辺千晶先生は、生徒に骨折の経験を聞きます。たくさん手が上がり、経験者が多いようです。出血を伴う骨折を経験した人もいました。経験を思い出すことで、本時の授業により真剣に向かう姿勢ができます。

体に骨折の疑いがある場合の対応は、RICEが有名です。R(Rest)安静、I(Ice)冷却、C(Compression)圧迫、E(Elevation)挙上というキーワードを押さええます。更に最近使われるようになった、新しい処置法の説明をします。POLICEは、Protection保護、Optimal Loading適切な負荷、Ice冷却、Compression圧迫、Elevation挙上。RICEにないのは、Optimal Loading『適切な負荷』という考え方。固定して全く動かさないと、回復後の可動域が狭まってしまうリハビリに時間がかかるため、医者や看護師の指導の下で、ある程度動かして負荷をかけるという考え方です。朝ドラの『エール』で看護婦になった華が学んでいました。

びっくりしたのは、生徒がすかさず「テストに出ますか？」という質問の矢です。渡辺先生の答えは「分かりません!」。角度を変えての質問の矢



にも「分かりませ〜ん」と基本ノーコメントを貫きました。生徒は何とか「英単語は覚えなくて大丈夫」を引き出してホッとしていました（笑）。渡辺先生、若いのにどっしり構えています。

骨折の話に続きます。骨折の場合の処置を、教科書に沿って押さえた後、「弱い人は耳を軽くふさいでいて」と言いながら（生徒は「エー」と言いながら、怖い物聴きたさで興味津々身を乗り出します）、『開放骨折』に触れます。骨が皮膚から飛び出して、出血を伴う処置です。自身の学生時代の目撃談を、生き生きと語っていました。

最後に歯を折った場合の処置の話。歯の保存液がない場合、代用品として、歯はカルシウムだから牛乳につけて折れた表面を乾燥させないで歯医者にダッシュ。ここでも渡辺先生の体験談が炸裂します。楽しい授業です。高校のバスケット時代に、仲間がルーズボールを取るときに、顔から床に飛び込んで前歯を折ってしまった。その場に牛乳もなかったの、歯医者に急いで持って行ったが手遅れで、刺し歯になってしまった失敗談です。最後に渡辺千晶先生は、「いろいろな手当の話をしてきたけれど、大事なことは怪我をしないこと！」とまとめていました。（※後で専門医のネットで調べたら、牛乳もない場合、自分の口の中に入れて歯医者にダッシュすると良いとか。なるほどね。）

11月20日（金）⑤ 1B 宮本教諭 英語

英語での挨拶から、『カラプリ』と称するプリント提出から入ります。宮本先生が、リスニング、プリント、疑問詞のまとめをやると伝えます。教科書のUnit 8を見ると、「どこにあるかたずねよう」「だれのものかたずねよう」「知っているかたずねよう」といった内容を、前時間までに学習してい

ます。まずは教科書のリスニング問題。父と子供の会話。「ラケットやバッグ、帽子が部屋のどこにあるか」聞いています。ほとんどの生徒は一回でしっかり聞いて解答しています。次はプリントを使ったリスニングです。絵を見て聞かれていることに答えます。更に、健太が二人の友達について語ったことを、日本語で空欄に埋めます。例えば「(ギター)を毎日練習します」といった聴き取りです。この後、別のプリントを使ったリスニングに入ります。英文を聞いて質問された答えを、プリントの図を見て答えます。男女二人の弟の誕生日の会話を聞いて、プリントの質問に答えます。



問題の程度が少しずつ難しくなってきます。うまく聞き取れない生徒もいます。どんどん英語を聞き取る力、話す力をつけていってほしいな。宿題になっていた様子のUnit 8-1プリントの答え合わせもします。疑問文を完成させる問題です。

『疑問詞+be動詞+主語』の形とそれに対する答えの形を完成させています。What time is it.も出てきました。nowはないけれど、昔、私が中学の時に習った、『掘った芋いじるな』です。なつかしい。最後に疑問詞をパワーアップするプリントをやりました。明日から第3回定期考査ということもあり、生徒は集中してとりくんでいます。プリントに『全集中の呼吸』とありました。ここにも大人気の『キメツ』が出てきました。



11 6 (金)

オリパラ ボッチャ体験

練馬区ボッチャ協会の方をお招きして、パラリンピック種目のボッチャの競技体験を行いました。コロナ禍の関係で、代表選手をお招きすることはできませんでしたが、1・2年生対象に、競技の奥深さを知ることができました。



10 30 (金)

交通安全教室



自転車を使った交通事故を再現してくれるスタントチームが来校しました。当日は校庭で、スタントチームが乗用車と自転車、自転車と自転車の交通事故、大型トラックの歩行者の巻き込み事故等の様子を実際に演じてくれました。

交通安全教室を通して、生徒はあらためて自転車のマナーを学んでいました。スマホを見ながら片手運転するような事故の再現もありました。万一の事故で歩行者を怪我させてしまった時のために、自転車も保

11 13 (金)

生活文化 体験学習

2・3年生対象に二時間ずつ、生活文化体験学習を行いました。『TGG』(東京グローバルゲイトウェイ)の大宮中版で、英語科を中心に準備をしました。『電話の会話』『電車の乗り換え案内』『東京お薦め観光スポット』『写真を撮ってもらう』等のミッションを、グループで移動しながら、外国人講師相手にグループでゲームや会話練習をしてから、一対一の英会話に挑戦しました。当日は10名以上の外国人が校内を歩いていて、日頃の授業とはひと味違う異文化体験の機会となりました。今後、関係小学校と連携しながら、聞き取り話すパフォーマンスの訓練を増やすことは大事だと感じました。



11 2 (月)

C組校外学習

多摩動物園にバスで行きました。園内は班行動で、たくさんの動物の様子を観察しました。



